

## はじめに

国東半島莊園村落遺跡詳細分布調査は、昭和五十六年の開館以来、当館が継続して行ってきた調査です。昭和五十六年からは、宇佐宮の莊園であつた田染莊の調査、続いて昭和六十二年からは宇佐宮の神宮寺であつた弥勒寺の莊園の一つ都甲莊の調査、そして平成五年より都甲莊と同じく弥勒寺の莊園である香々地莊の調査を進めてまいりました。

わたくしたちの眼前に広がるムラそのものを対象としたこれらの調査では、景観もまた古文書や石造文化財などの文化財と同じように歴史の証言者であり、そこに刻まれたさまざまな情報を収集し記録することの重要性を知ることとなりました。しかしながら、諸開発あるいは過疎によつて、国東半島のムラの景観あるいは暮らし自体も大きく変貌を遂げ、これまでムラに伝えられてきたさまざまな情報が失われつつあります。そのなかで、ムラの姿を記録していくことは、過去の人々の営みの成果を明らかにすることであり、こうした調査が必要かつ急務であることを改めて痛感した次第であります。

この資料編は、これまで五年にわたつて、歴史・考古・地理・民俗・美術史などの各分野から調査してまいりました諸調査の基礎データを整理したものです。ここに収められた諸資料は二十世紀末のムラに伝えられたさまざまな情報の一つの記録として、後世の人々が充分に活用できることを願つて編集いたしました。また、これらの資料をもとに、来年度の報告書では、中世の莊園村落の復原を模索してまいりたいと存じます。

終わりにりましたが、これまで五年間、この調査に御協力いただいた地域の方々、香々地町教育委員会をはじめとする諸機関の関係者、種々有益な御提言を賜つた調査委員あるいは調査員の諸先生方に厚くお礼申し上げます。

平成十年三月三十一日

大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館

館長 首藤 安男